

高耐久性埋設型枠を適用した橋梁下部工の急速施工報告

Technical report for the rapid construction of the bridge substructures adopting the high durability precast formwork

▶キーワード：REED 工法，高耐久性埋設型枠，突起付 H 型钢

岡本将明*
 砂田義邦**
 磯部智泰***
 早川裕介****

* 西日本(支)高梁川(出) (現：京都西シールド(出)) ** 西日本(支)高梁川(出) (現：洛西シールド(出)) *** 西日本(支)高梁川(出) (現：竹原火力(出)) **** 西日本(支)高梁川(出) (現：九州(支)内大臣(出))

概要

倉敷立体高梁川大橋下部その 9 工事では、河川内での施工可能な期間が非出水期（平成 28 年 10 月 21 日～平成 29 年 6 月 15 日）に限定されていたため、高耐久性埋設型枠（SEED フォーム）を適用した REED 工法にて橋脚の急速施工を行った。

本工事では、河川敷に広域な作業ヤードを設けることにより、函体を数多くストックし、在来工法による施工と比較して施工日数を短縮することが可能であったために、工期内で工事を完了することができた。

本文では、工事で採用した REED 工法に関する特性と施工の概要について述べるとともに、在来工法と比較した実施工程を示す。

成果

- REED 工法は、施工条件（広域なストックヤード）が整えば在来工法と比較して大幅な工期短縮が可能である。
- REED 工法は、工場製作の SEED フォーム（プレキャスト型枠）を用いるため、製品精度が高い。
- SEED フォームは高強度ではあるが、組立時、仮置時、および運搬時には製品の角欠けに細心の注意が必要である。

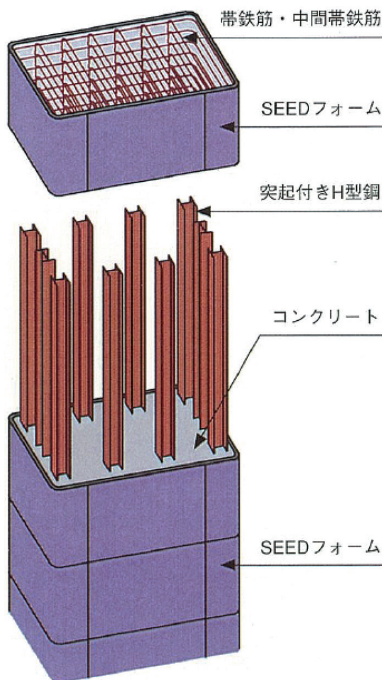


図-1 REED 工法概念図



写真-1 着工前全景



写真-2 完成写真